



町生涯学習センター・図書室

☎ 096-234-2447 (内線331)

■開館時間 午前9時～午後5時

■休館日 毎週火曜
年末年始

■貸出冊数 1人5冊まで

■貸出期間 15日間



「休館日の図書室」を楽しみました！

8月19日(火)、夏休み特別企画「休館日の図書室へようこそ！」を開催し、町内外の児童4人が参加しました。

児童たちは、絵本の読み聞かせや手遊び歌などを楽しんだ後、身近な物で作る遊べるおもちゃ作りに挑戦。ペットボトルを再利用した「らくらくボウリング」を作り、ボウリングを楽しみました。参加した中島奏太さん(甲佐小1年・緑町区)は、「楽しかった。家でもいっぱい遊びます」と話しました。

0歳児からのおはなし会について

図書室では、毎月第2木曜日に「0歳児からのおはなし会」を行っています。



▲ボウリングピンを作る子どもたち

ていまず。絵本の読み聞かせや、手袋人形、手遊びつたなど楽しい内容です。子育て中の保護者のみなさん、おじいちゃん、おばあちゃんも子どもたちとお気軽にご参加ください。

日時

10月9日(木) 午前10時30分～

会場

おはなしのへや
(甲佐町生涯学習センター・図書室内)

新着図書紹介

一般書



不完全主義 限りある人生を上手に過ごす方法 オリバー・パークマン 著/高橋 瑠子
もっと効率的に、もっと頑張らなければ…そんなプレッシャーに追われていないだろうか？本当に大切なのは、不完全さを受け入れ、自由に生きること。生産性の常識を覆し、力を抜いて充実した人生を手に入れる方法を紹介します。



中央アジア紀行 めぐり5か国60日 白石 あづさ 文・写真/辰巳出版
草原の広がるカザフスタン、シルクロードの中心地・ウズベキスタン、遊牧文化が息づくキルギス…。秘境から未来都市まで、いま人気のエリア・中央アジア5か国の魅力を、美しい写真とともに紹介しているおすすめの一冊です。



10歳までに身につけたい身近な危険から自分を守る方法 武田 信彦 著/青春出版社
怖いこと、嫌なことがあったらどうする？自分を守る「あんぜんの力」ってどんな力？子どもの防犯スペシャリストが、一生役立つ防犯のコツをクイズやゲームを交えて紹介。子ども・大人・地域の力で防犯力アップできる一冊です。

児童書



いちごでかぞえる 1から5まで 赤木 かん子 著・田村 康二朗 監修/(福) 埼玉福祉会出版
数を数えられるようになることは、社会で生きていくために大切なこと。ひとつ・ふたつなどの数の呼び方と、1・2などの数字と、写真のいちごの量を一致させることを学びます。やさしく読みやすい表現を使ったLLブックです。



ぎょうれつのできるサンドイッチやさん ふくざわ ゆみこ 作/教育画劇
カピバラさんは、ぐうぐう山へ冒険に行く子猫のココに、冒険にぴったりな4つのサンドイッチを作ります。サンドイッチの中身は…。いろいろカラフルサンドイッチのレシピ付き。ぎょうれつのできるおいしい絵本シリーズ新刊です。



放課後ミステリクラブ7 音楽室のゆうれいとおどるがいこつ事件 知念 実希人 著/ライツ社
夜、誰もいないはずの音楽室からピアノの音が！そして理科室にはおどるがいこつ！？…。4年1組の辻堂天馬・柚木陸・神山美鈴、通称「ミステリトリオ」がこの謎に挑む！作家・知念実希人による児童書本格ミステリ第7巻です。

日本でのラジオ放送は、1925年（大正14年）3月22日、東京・芝浦から送信出力220ワットで始まりました。東京放送局の契約者は約3,500人、聴取料は月額1円。当時のラジオはまだ高価で、一般家庭にはあまり普及していませんでした。

広く使われていたのは、電源を使わず両耳にレシーバーを当てて聞く「鉱石ラジオ」でした。一方、真空管を使った「3球受信機」は高性能でしたが、非常に高価で庶民には手が届きにくいものでした。

宮内地区社会教育センターの町民俗資料館には、昭和初期から戦後にかけて松下無線（現パナソニック）が製造した「並四真空管ラジオ」が展示されています。ST管を4本使ったシンプルな構造で、ダイヤルを手動で調整しながら放送局を探す方式でした。このラジオは、今のようにボタン1つで局を合わせることはできず、ダイヤルを回して「ピュー」、「ガーガー」といった雑音の中から、目

的の放送を探し当てる必要があり、使いこなすには工夫が必要でした。展示機も受信を試みましたが、部品の劣化により現在は動作しません。

当時、ラジオ本体には物品税が課されていましたが、部品には税がかからなかったため、自作ラジオが流行。これが秋葉原電気街の発展にもつながったといわれています。

その後、プロ野球中継の開始や受信機の性能向上により、ラジオは一気に全国へ普及し、家庭の中心で親しまれる存在となっていきました。



▲町民俗資料館に展示されている
四真空管ラジオ（木製）

お問い合わせ先 町社会教育課 ☎ 096-234-2447（内線327）

人権 心豊かに暮らすために

図書室「人権コーナー」の本の紹介

町生涯学習センター・図書室の「人権コーナー」では、人権に関するさまざまな本を展示しています。今回はその中から、2冊をご紹介します。ぜひ、足を運んでみてください。



▲町図書室にある人権コーナー

■『木を植えた子どもたち』ふるさとを学び未来へつなぐ』（著者：岡田みつよ・発行者：未来を創る会）

この本は、御船町立上野小学校に勤務されていた岡田みつよ先生が、これまでの教育実践をもとにまとめた一冊です。先生は冒頭で、「この実践は、人権教育の1つとして取り組んだものです」と語られています。子どもたちが、地域の郷土芸能や自然、そこに暮らす人々とふれあいながら、命や繋がり

■『マンガ私たちと人権「子育て編」ー愛ちゃんのつばやきー』（マンガ：今道英治・製作：東宝株式会社）

この本は、小学1年生の女の子、愛ちゃんが主人公のマンガ作品です。家庭や学校、地域の中で起こるさまざまな人権に関するテーマが、子どもの視点で分かりやすく描かれています。物語の中には、根拠のない迷信、女性の職場復帰に関する偏見、家族に関する問題など、身近で起こり得る課題を取り上げています。物語の中で愛ちゃん自身も少しずつ成長していき、読者も共に学ぶことができます。一冊です。

本を通じて、日常にある「人権」について、ぜひ考えてみてください。

●お問い合わせ先

町社会教育課

☎ 096-234-2447